

平成17年度 グリーン物流パートナーシップモデル事業

実施計画提案書

〔モデル事業件名〕

環境調和型物流センターの構築

環境問題（CO₂排出量の削減）と部品納入頻度向上、
リードタイム短縮の両立を狙った物流改善

（提案事業者）

荷主企業	矢崎総業(株)
物流事業者	翔運輸(株)

1. 提案の概要

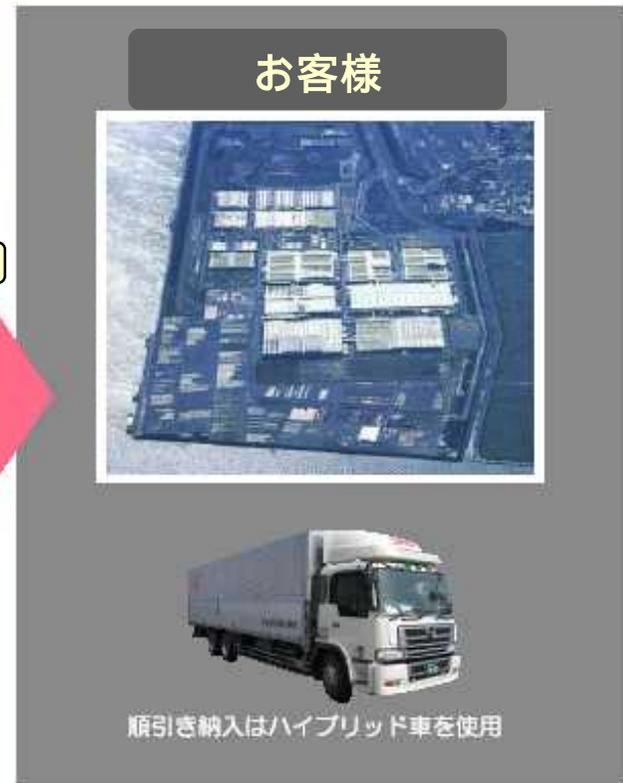
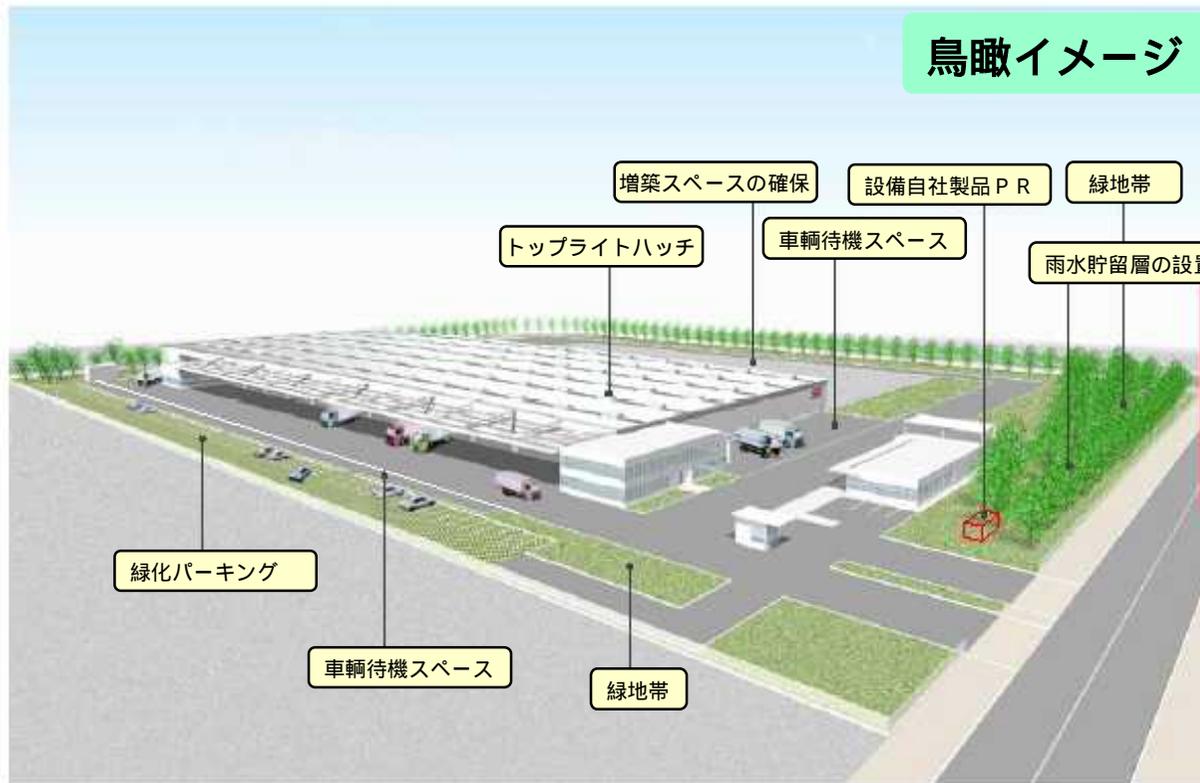
. お客様へのわずか1kmというロケーションを活かして、各サプライヤー様の部品を共同納入します。つまり、各サプライヤー様の部品をこの物流センターに集め、お客様から送られてくる情報に合わせて混載納入するシステムです。

. 納入品質の高度化を各サプライヤー様が個別に推進すると、納入トラックの増加や輸送効率の低下という環境面での課題が発生してきますが、中継地を設けて混載納入を実現出来れば「部品納入の高度化」と、「環境負荷の低減」という、相反する二つの要素を両立させることが可能になります。

2. 田原物流センター 建物の特徴

「環境への配慮」に重点を置いた当センターは、敷地全体の4分の1を緑地として確保し、潤いのある外部環境を実現しています。自然光を取り入れた照明システムや雨水利用など、自然エネルギーを積極的に活用した省エネ・省メンテナンス設計も大きな特徴です。

また、敷地内にトラック車両の待機場を十分確保して路上駐車をなくすと共に、アイドリングストップの徹底により環境負荷の軽減に努めています。当センターは、納入先のお客様、地域社会の方々、従業員それぞれにとって高品質の環境を備えた物流センターです。



環境対策



アイドリング
ストップ



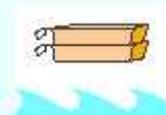
リサイクル材の
使用



共同輸送による
CO₂削減



雨水の有効利用
緑地への散水



塩害・風害対策



グリーンベルト
の設置

危機管理対策



耐震構造の建物
地震に強い倉庫



情報のバック
アップ



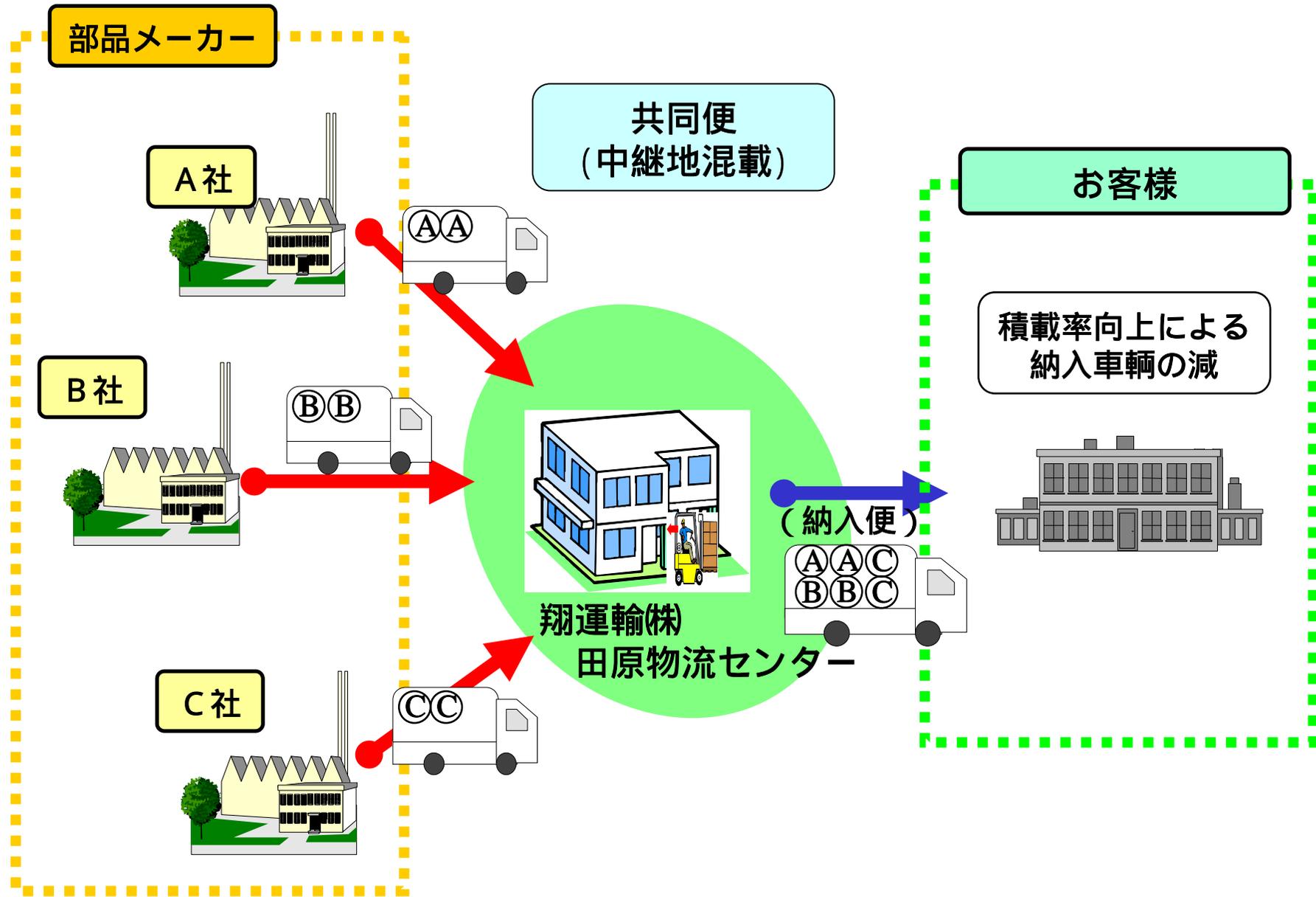
耐震構造の建物
地震に強い倉庫

3. レイアウト

翔運輸株式会社 田原物流センター 配置・平面図



4. 共同配送について



5. 田原物流センターの環境への取組み

